

令和 3 年度 学校自己評価書 (川南町立国光原中学校)

項目	評価指標 及び 具体的目標	方策・手立て	自己評価		結果の考察・分析および改善策等
			項目	総合	
I 町民が生涯を通じて学び、教育に参画する社会づくりの推進					
1	家庭教育支援の充実に努める。 ・啓発活動の推進 ・家庭教育学級の充実	・家庭でのスマートフォンやSNS使用、家庭教育の重要性について啓発を図る。 ・魅力ある家庭教育学級を実施する。	3. 9	4.0	○ネットトラブル防止教室やメディアコントロール週間、保健だより等を通して啓発を行った。 ●3校合同の家庭教育学級は実施できたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、家庭教育学級の自粛が続いた。
2	学校や家庭、地域等が一体となって取り組む教育を推進する。(PTA活動) ・積極的な情報発信 ・PTA活動の見直し ・学校運営協議会との連携 ・地域人財との積極的連携	・ホームページの更新、情報提供 ・保護者、生徒、学校にとって必要なPTA活動を実施する。 ・学校運営協議会と連携して課題解決に取り組む。 ・地域人財との積極的な連携を通して学校行事等の充実に図る。	4. 1		○ホームページを毎日更新し、学校の様子を発信した。 ○学校運営協議会での話し合いをもとに、地域の方と共に行う地域の清掃活動を実施できた。 ○職業講話や職場体験学習、ふるさと学習等で、多くの地域の方にご協力いただき、充実した学習ができた。 ●PTA活動の精選を目指したが、実施できない活動が多く、十分な検討ができなかった。
II 社会を生き抜く基盤を培い、未来を担う人財を育む教育の推進					
1	読書活動を推進する。 ・読書事務との連携	・図書事務と連携して図書室来校者数、図書貸し出し数、本に触れる生徒、読書に親しむ生徒を増やす。	3. 7	3.9	○学級文庫や図書室の展示、生徒玄関の図書の紹介等の工夫により、貸出冊数は目標値を達成した。 ●生徒が本に触れる機会をさらに増やすことで、読解力の育成に繋げる工夫が必要である。
2	確かな学力を育む教育を推進する。 ・宮崎大学との連携、ICTの効果的な活用 ・授業力の向上 ・家庭学習の充実	・宮崎大学との連携(数学、理科)、主題研究においてICTの授業における効果的な活用を図る。 ・研究授業や研修を通して教員一人一人の授業力向上を図る。 ・生徒、保護者に対して啓発活動を行い、家庭学習を充実させる。	3. 9		○タブレットが導入され、主題研究を通してICT機器を活用した授業改善を進めることができた。 ●宮崎大学との連携を模索したが、使用する機器の相違から連携がうまくいかなかった。また、タブレット導入1年目のため、接続の問題や効果的な活用法の研究など課題も多い。 ●家庭学習の取組には個人差がある。啓発を継続して、さらなる充実を目指していく必要がある。
3	人権を尊重し豊かな心を育む教育を推進する。 ・道徳教育の充実 ・人権教育の推進 ・いじめ防止基本方針に基づいた取組の充実	・授業を中心とした道徳教育を充実させる。 ・平和や命を大切にすると朗読劇を鑑賞するなど人権教育を推進する。 ・いじめ不登校対策委員会を毎月実施し、いじめの早期発見、早期解決を図る。	3. 9		○道徳の授業や平和学習、命を大切にすると教育、人権講話等を通して、人権を尊重し豊かな心を育む教育を実践した。 ○学校生活アンケートを毎月実施し、その分析や対策を行い、いじめの早期発見・早期解決に努めた。 ●不登校や不登校傾向の生徒に対して組織的に対応したが、家庭内の問題や本人の特性等もあり思うように改善しなかった。
4	特別支援教育を推進する。 ・個に応じた特別支援教育の充実 ・研修の推進	・生徒理解を通して一人一人に応じた教育を充実させる。 ・特別支援教育の研修を行い、教職員の資質向上を図る。	3. 8		○毎週時間を設定し、全職員で生徒理解に努めた。個に応じた温かい指導が多くの場面で見られた。 ○夏季休業中にスクールカウンセラーを活用して、特別な支援が必要な生徒への指導について研修を行った。
5	郷土を愛し地域社会に参画する態度を育む教育を推進する。 ・農業大学との連携 ・小学校との連携(持続可能なみやざきづくりを実現する環境教育推進事業) ・ふるさと学習の推進	・農業大学と連携して作物栽培や販売を行い、地域産業を体験するとともに地域の方々との交流を図る。 ・小学校と連携して美化活動等に取り組む。 ・各学年の総合的な学習の時間でふるさと学習を推進する。	3. 9		○農業大学の協力をいただき、カボチャとサツマイモの植え付け・収穫を体験した。軽トラ市ではサツマイモを販売し、地域の方と交流した。 ○グリーン作戦では、小学生と一緒に地域の清掃活動を行った。 ○多くの方に協力をいただき、充実したふるさと学習を行うことができた。 ●教育課程外の活動が多いため、職員の負担が大きい。教育課程内で実施できるものについては移行していく必要がある。
6	キャリア教育を推進する。 ・キャリア教育コーディネーターとの連携 ・地域と連携したキャリア教育の推進	・キャリア教育コーディネーターとの連携を通して系統的なキャリア教育を推進する。 ・職場体験学習、職業講話等、地域の力を借りたキャリア教育を推進する。	4. 2		○キャリア教育コーディネーターに「生き方について考えることの意義」や「これから身に付けてほしい力」等について講話をしていただいた。 ○職業講話や職場体験学習、ふるさと学習で多くの方の協力をいただき、系統的なキャリア教育を行うことができた。
7	社会の変化に対応した多様な人財を育む教育を推進する。 ・ICTの効果的な活用研修	・ICTの効果的な活用について研修し、タブレットを中心としたICT機器の操作について指導を行う。	4. 0		○タブレットの活用を積極的にを行い、課題を共有し、その解決策について研修を行った。 ●まだ試行錯誤の状態であり、効果的な活用となるよう、さらに研修を深めていく必要がある。

III 教育を支える体制や環境の整備・充実					
1	教職員の資質向上と働き方改革の推進に努める。 ・コンプライアンスチェック・研修 ・業務の見直し	・定期的なコンプライアンス項目のチェックや研修を通して個々の意識の向上を図る。 ・組織的な業務の見直しを行い、必要な事柄に時間や労力をかけるための働き方改革を推進する。	3.9	4.0	○定期的なコンプライアンスチェックや計画的な研修を通して、資質向上に努めた。 ○戸締りを各学年が行うなど組織的に動くことで、個人への負担を軽減することができた。 ●行事等の見直しを行っているが、さらなる精選が必要である。
2	安全、安心な教育環境の整備・充実に努める。 ・けがや病気の未然防止 ・定期的な安全点検 ・危機管理マニュアルの確認	・けがや病気(新型コロナウイルス感染症)を未然に防ぐための対策を行う。 ・施設設備の定期的な安全点検を行う。 ・危機管理マニュアルの確認を通して、緊急の際の実効性を図る。	4.0		○新型コロナウイルスの感染状況に応じた感染防止対策を行った。 ○毎月校内の安全点検を行い、教育課と連携して修繕等を行った。 ●施設が老朽化しており思わぬところが破損するので、細やかな安全点検を継続していく必要がある。
IV 文化やスポーツに親しむ社会づくりの推進					
1	学校体育の推進に努める。 ・体力向上プランの推進 ・適正な部活動の推進	・体力向上プランに基づいた体力の向上を図る。 ・過度な負担を強いることなく、効果的で適正な部活動を推進する。	4.0	4.0	○体育の授業において体力向上に努めた。 ○リフレッシュデーが定着し平日の部活動は適切に運営できている。 ●休日の部活動は、新型コロナの関係で多くの大会が中止となった。また、大会が集中して行われた時期があり、少し負担過重と感ずることもあった。